

管路更生工法「SPR工法」 大河内賞贈賞式にて「大河内記念賞」を受賞

積水化学工業株式会社、東京都下水道サービス株式会社、足立建設公業株式会社の3社により共同開発してきた管路更生工法「SPR工法」が、この度、公益財団法人大河内記念会が実施する第59回大河内賞において最上位となる「大河内記念賞」を受賞し、3月22日（金）、日本工業倶楽部会館（東京・丸の内）にて贈賞式が行われました。

受賞名：「スパイラル自動製管管路更生工法（SPR工法）の開発と実用化」

大河内賞は、大河内正敏博士の学界、産業界に残された功績を記念して1954年（昭和29年）に設立された大河内記念会により、生産工学、生産技術の分野の卓越した業績について表彰される伝統と権威のある賞です。

その中でも「大河内記念賞」は最上位に位置づけられ、下水道関係では初の受賞となります。

下水管路を供用したままの状況でその内側に新しい管路を布設するという管路更生工法を世界で初めて開発・実用化したことが評価されました。

◆ 大河内記念会WEBサイト <http://www.okochi.or.jp/hp/top.html>

◆ SPR工法 <http://www.eslontimes.com/system/items-view/71/>



受賞者を代表して、高見浩三 積水化学工業（株）環境・ライフラインカンパニープレジデントから、今後もこの技術を活かして、目に見えない社会インフラの老朽化問題の解決に取り組んでいく旨の挨拶をいたしました。



SPR工法施工風景

SPR工法とは、既設管内に硬質塩化ビニル材製のプロファイルをスパイラル状に嵌合させながら製管し、既設管と更生管の間に特殊裏込め材を充填することにより、既設管路と一体化した強固な複合管として更生する工法です。この考え方は世界初の技術であり既設管を活用することで廃棄物を少なくできる環境にやさしい工法です。

当初は下水道の円形管からスタートしましたが、大口径対応、馬蹄形や矩形などあらゆる断面形状への対応を経て、現在では下水道のみならず、農業用水、上水道、工業用水、民間工場へも幅広く展開しています。



またこの技術を用いて、国内のみならずアメリカ、ヨーロッパ、東南アジアなど海外のパイプライン改築工事でも採用されており、シベリア鉄道の輸送力増強に伴う橋梁補強工事でも採用されました。



海外での施工状況



シベリア鉄道補強工事